

教育方針		「磨き合い 共に輝け 二階堂」をスローガンに、「キャリアデザイン科(総合学科)」の特色を生かし、社会の中で自らが果たす役割や生き方を見つけ、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指したキャリア教育を推進する。		B	総合評価		
平成30年度の成果と課題		本年度の重点目標			具体的目標		
平成30年度はキャリアデザイン科(総合学科)4年目として、地域社会とつながる実学教育を進めた。「天理市の課題解決」に向け、1年生は地域社会の理解、2年生は地域社会への提言、3年生は地域企業と連携した商品開発・営業活動に取り組んだ。11月には天理駅前広場「コフフン」を借り切り中間発表会「二階堂フェスタ」を2月には「キャリアデザイン科発表会」を行った。この取り組みを中核として、全ての教育活動でキャリア教育を推進した。生徒は活動を通して本校の教育目標である「社会人基礎力」を身に付けた。令和元年度は、地域とつながる実学教育を教育課程に位置づけられた継続的な研究とし、全ての教育活動でキャリア教育をより推進していく。		(1)一人一人の個性と能力、可能性を伸ばすキャリア教育の推進			①主体的・対話的な活動を通して、実社会とつながった「深い学びに向かう力」の育成。 ②「知識、技能」の深い理解(“Brush up Time”を軸に据えた基礎学力の充実・積極的な資格、検定の取得)。 ③「産業社会と人間」を土台とした社会を構成する自立した主体となる生徒の育成。 ④「社会人基礎力」を通し、多様な人と「協働する力」と「課題発見・解決能力」の育成。 ⑤部活動や生徒会活動、学校行事を通して、主体性と協調性をもった生徒の育成。 ※ BUT:Brush up Time ※ 社会人基礎力:総合的な学習の時間		
		(2)自他の生命を尊重する心と礼節を重んじる態度の育成			①時を守り、他者を尊重することを通して、自己の信用を高めさせる。 ②爽やかな挨拶、美しい言葉遣いと身だしなみ、マナーの向上に努める。 ③積極的、自主的な社会貢献活動を通して、公共心や感謝の心を育む。 ④ボランティア活動を推進し、社会に貢献する意欲と責任ある態度を養う。 ⑤高等養護学校分教室との交流を推進し、社会性、多様性を尊重する心を育む。		
		(3)教職員一人一人が協力して教育力の向上を目指す学校運営		①新学習指導要領の実施に向けた、新しい教育課程を創造する。 ②ICTを活用し、生徒の学習意欲を高める授業づくりを推進する。 ③地域や保護者との連携・協働により、コミュニティスクールの取組を推進する。 ④学年、分掌、事務室が情報を共有し、チームとしての教育活動の推進を図る。 ⑤教育活動の充実と安全管理のため、施設・設備の整備を進める。			
分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
学習	学力の向上	・BUTの実施により基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。生徒アンケートにおいて「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」のGPA3.1以上。 ・資格・検定の積極的受検により能動的な学習習慣を身につける。各種検定受験数500名以上。		B	「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」のGPAは2.96で、概ね達成できたが、BUTの実施方法等についてはより改善する必要がある。各種検定受験者数は441名となり目標の数値を概ね達成することができた。	BUTについては、新学習指導要領を見据えた科目全体の見直しが必要である。より効果的な取組となるよう先生方の研修を重ねて頂きたい。	取組の内容は素晴らしい、評価できる。より効果的な取組となるよう先生方の研修を重ねて頂きたい。
	教科指導力の向上	・指導力の向上に向け、評価と指導の一体化、ICTを活用した授業づくりを進める。 ・生徒が主体的に取り組むことができる授業の実践。授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPA3.0以上。		B			
生活指導	規範意識の向上	・挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、粘り強く指導をすることによってルールやマナーを守る素地をつくる。さらに積極的に挨拶が出来るように指導を続ける。 ・問題行動による指導件数について昨年度比10%減をめざす。		B	積極的に挨拶をしてくる生徒が増えた。しかし、まだまだ粘り強く取り組む必要がある。指導件数のべ人数は昨年度比17%減であったが、特別指導のべ人数は逆に63%増であり、かなり増加した。  遅刻数は昨年度よりも増となった。服装・頭髪等の身だしなみについては、生徒の多様性を十分に意識した指導を展開する必要がある。  中学校訪問によって入学前に様々な情報をあらかじめ得たことで、学年当初の生徒理解がすすみ、細部にわたって配慮することが可能となった。欠席・遅刻は多くみられたが、常に家庭連絡をとって状況把握した。保護者アンケートにおける「学校の先生は生徒理解に努め、生活指導面にも熱心である」のGPAは であつた。	引き続き入学直後の指導に役立つための中学校訪問を実施する。 遅刻指導・服装指導等については、年度当初の教員研修を充実させる。	様々な家庭環境の生徒たちを抱え、先生方の努力は評価できる。しかしながら、生活習慣に課題のある生徒たちの学校生活を立て直すことは、キャリアデザインの観点からも急務であり、さらなる対策を講じて頂きたい。
	基本的生活習慣の確立	・時間を大切にする指導を徹底し、けじめある行動を心がける。さらに遅刻の減少に取り組み、遅刻数について昨年度比10%減を目標とする。 ・学年集会等を利用して、服装・頭髪等の身だしなみについて学年間の不統一のない指導を展開する。		B			
	生徒理解と家庭との連携	・家庭訪問に代えて実施した中学校訪問で得た情報を集約し、学年当初の生徒指導に役立てる。 ・欠席・遅刻における家庭との連絡を徹底して、家庭との協同による指導を行い、保護者アンケートにおける「学校の先生は生徒理解に努め、生活指導面にも熱心である」のGPA3.5以上。		B			
情操指導	読書週間の定着	・読書週間中のお薦め本のリストを作成する。図書委員会活動を活発にする。(図書館イベントやお薦め本のリストやポスター作成を生徒主導で行う。)		A	図書委員会活動を生徒主導で行い、生徒の読書啓発活動に繋がった。また、お薦め本のリストを作成した。  文化委員会の役割を明確化し、生徒の意見を反映できた。  清掃点検の点検率93.3%。保護者アンケート「学校の環境美化、清掃が十分に出来ている」のGPAは3.29であった。  通学路清掃はほぼすべてのクラスが行った。	図書委員・文化委員・環境美化委員・生徒会役員が、各自の活動内容を把握し、自主的に伝えるようにする。クリーンキャンペーンやトイレ掃除ボランティアの取組の参加数を増やすため、さらに周知を徹底する。	自主的に通学路清掃や各種ボランティアに参加することは社会貢献への意識が高まり、素晴らしい。また、読書週間を活用した図書活動も評価できる。
	文化行事の充実	・生徒からの意見を活かした文化鑑賞会の企画を行い、内容の充実を図る。		A			
	環境美化意識の向上	・クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。 ・年2回清掃用具点検を行い、清掃活動が円滑に行えるようにする。(点検率100%)		A			
	奉仕精神と勤労観の育成	・年間を通して各クラス年1回の通学路清掃を実施する。		A			

※ 自己評価結果について … A:十分である(よくできた) B:ほぼ十分である(ほぼできた) C:あまり十分でない(あまりできなかった) D:改善を要する(できなかった)

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
健康管理	生徒の体力向上と健康維持	・新体力テストの校内平均で、2種目以上は奈良県平均まで引き上げる。 心身ともに自己管理を促し、保健室の利用回数を20%減らす。	C	新体力テストで、2種目平均を上回ったが、他は平均より大きく下回っている。保健室の利用回数は昨年度より少し増加している。	体力向上に向け、生徒の実態把握に努める。	人生100年時代における健康寿命は重要である。今だけでなく将来に向けて、現在の体力向上・健康意識を高めて頂きたい。
	食育の充実	・朝食の欠食率を各学年、10%減らす。 ・食育に関する保健便りを、年間6回発行する。	C	朝食の欠食率は昨年度より少し増加している。 保健便りは年5回の発行であった。		
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	・サクセスセミナー出席率者数の目標を80%以上とする。内容もさらに充実させ、進路実現に向けての意思決定と方策の実行をサポートし、ミスマッチを防いだ進路指導に努める。	B	放課後に、のべ258人が出席をして、キャリアノートを利用し必要な情報を生徒に提供して、意識改革に取り組めた。一人あたり平均1.6回の出席となったが、さらに参加率を高め意識向上を図りたい。	県全体で就職内定率が少し下がり厳しい時代となりつつある。教員全体で進路意識の高揚を図る指導を、全教育活動の中で展開していきたい。また、最新の情報を提供していきたい。	充実した進路指導だけでなく、進路決定後の指導は、他校にない素晴らしい取組である。転職の時代とはいえ、ミスマッチを防ぐことは大切であり、効果が期待できる。
	卒業後に要する知識・技能・態度の育成	・卒業後の新生活へのスムーズな移行への支援として、学校推薦による就職内定者や大学合格者に対して、定期的にセミナーを実施し、該当生徒100%の参加を目標とする。	A	大学のゼミ活動を模したグループ演習や、卒業生の就職者を招いた講座などを実施して働くことの意義や意識向上を図った。また、該当生徒の参加率は80%程度であり、さらなる意識改革に迫りたい。		
地域・保護者との連携	学校関係者との連携	・PTA新聞を年2回発行する。総会、研修会、乗車マナー指導等のPTA活動への保護者の参加を促進する。(参加者5%増)	A	保護者の参加数は昨年度とほぼ同じであった。学校運営協議委員のアドバイスを取り入れた。	保護者への連絡や案内等について、ホームページ等を活用した更なる広報の充実を努める。	保護者・地域を巻き込み、連携した教育活動はコミュニティースクールの目的に合致しており評価できる。
	学校評価制度の活用と充実	・各種アンケートを実施・分析して、学校改善に反映させる。保護者アンケート回収率90%以上。	B	回収率79.5%、「学校から保護者への連絡文書はよく目を通している」の項目で数値が上昇した。		
	開かれた学校づくり	・体育大会・二階堂フェスタ等の学校行事に保護者の参加を促進する。(参加者5%増) ・学校ホームページの充実。	C	「本校のHPをよく見ている」のGPAが2.02であった。奈良県教育週間への参加者数は1,000人を超えた。		
防災	安全教育・防災体制の充実	・年2回安全教育を実施し、避難訓練を行い防災教育の充実をはかる。また、定期的に安全点検を行う。	B	避難訓練は雨天のため体育館への避難になったが避難経路の確認等は行うことが出来た。	引き続き実施機会を確保する。	生徒自身が命を守る訓練への意識を高めて頂きたい。
人権・特別支援教育	生徒の人権尊重の意識の確立	・交流委員会を中心にした分教室との交流学習会を実施し、インクルーシブ教育の充実を図る。 ・人権ホームルームや学年集会を通して、ネットモラル意識を高める取組を行う。	B	各クラスの交流委員会を中心に全校交流学習を行った。全校交流学習において、昨年度の反省を踏まえ時期や方法を検討して実施した。	人権HR交流学習をより充実させる。人権HRや交流学習における年間計画について再検討する。	インクルーシブ教育を重視する学校らしい取組ができていると評価できる。また、頻繁に発生するネットトラブルへの意識付けも素晴らしい。これらの取組を継続・発展して頂きたい。
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	・個々の生徒の課題を受け止め、迅速で組織的に対応するために毎学期スクールカウンセラーを講師とした研修会を実施する。	A	外部講師を招いての結婚差別についての講演、LINE株式会社から講師を招いてネットトラブルについてのワークショップを行った。 スクールカウンセラーを講師とした研修会を毎学期実施した。特別支援教育推進委員会は必要に応じて実施し、適切な支援ができた。		
	国際理解教育の深化	・国際交流研究会の活動をより国際的なものにし、多文化共生社会に対する意識を高める。	B	奈良県外国人生徒交流会などの情報発信を行った。外国にルーツをもつ校内生徒のつながりを来年度は強化していきたい。	外国ルーツの生徒の把握と保護者の連携を迅速に行う。	
研究	各種校内研修の実施	・特別支援教育の充実に向け、高等養護学校分教室との連携を強化し、合同の校内研修会を実施する。	A	年度当初に合同研修を行い、また必要に応じて、分教室と要配慮生徒について情報交換を行った。交流委員会担当者を中心に分教室と連携した。	両校生徒の相互理解が深まる取組を増やす。 授業公開は、運営上の工夫を重ね、授業改善につなげる	先生方の多忙の中でも研修会を実施しようとしている姿勢は評価できる。先生方の日常のこ

<p>研 修</p>	<p>管理システム開発の進捗</p>	<p>・教科の枠を超えた授業公開・研究の実施(延べ参加人数昨年度比10%増)。</p>	<p>C</p>	<p>授業評価シートを作成し、授業研究を行う視点などを明確にし、共通理解を図ったが、参加人数は、昨年度と比較して10%増には届かなかった。</p>	<p>・</p>	<p>ルエノソノロ中ノ一 コミュニケーションも 大切にしていきたい。</p>
----------------	--------------------	---	----------	---	----------	--

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果※		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
第一学年	基本的な生活習慣・規範意識の 確立、進路を見据えた学習	・社会人基礎力の基盤として、身だしなみや挨拶、時間を守ること、適切な言葉遣い等への意識を高めさせる。日常の声かけ・面談等を通して、生徒・保護者との信頼関係を構築する。	B	B	欠席・遅刻数が増加傾向にある。身だしなみを整えることや挨拶の励行などを含めた基本的な生活習慣を確立させるための手立てを一層工夫し、今後も継続していく必要がある。「産業社会と人間」に関しては、学習課題の見直しを行うなどの改善を行い、生徒の反応も良好であった。	生徒個々の課題と向き合い、その指導のために教員・保護者が連携し、粘り強く取組を進める。	生徒たちの現状を踏まえても、先生方の努力と工夫を感じることができる。また、スクールカウンセラーと連携した取組も進んでいると同っている。
		・「産業社会と人間」の授業等を通じて、自己の進路について考える。日々の授業・BUTを大切にし、ステップアップゼミ・進路補習等にも積極的に参加させる。	B				
第二学年	規範意識の向上 進路を見据えた学習	・自ら身だしなみを意識する姿勢をもたせる。時間を守る指導を徹底し、遅刻を減らす。(平成30年度第1学年比10%減)	C	C	様々な悩みを抱え、頑張り切れない生徒が多く欠席・遅刻数が1年次より増加した。規範意識に対する丁寧な継続的指導が必要である。進路目標を明確に持たせ、補習等へ積極的に参加させていきたい。	規範意識に対し粘り強く丁寧に個別指導をする。進路実現に向けて具体的な取り組みを進める。	生活習慣・学力向上・進路保障は一体であり、キャリアデザイン科の学びの意義を生徒たちに伝えられるよう様々な方法でアプローチして頂きたい。また、そのためには、先生方のよりよいチームワークが求められるので、先生方も生徒と一緒にキャリアデザインについて考え、自身の働きがいを感じる職場作りを進めて頂きたい。
		・授業・BUTを大切にし、進路補習等に積極的に参加させる。	C				
第三学年	生徒の進路希望の充実を図る	・生徒の進路選択のための説明会や進路補習、面接指導等を充実させる。また、欠席や遅刻の総数を減らす。(欠席・遅刻総数を第二学年時比10%以上減)	C	B	進路実現に向けて、多くの生徒が前向きに積極的に取り組みを行いました。特に就職試験に向けての学習補習や面接指導は熱心に取り組まれました。社会人基礎力については、授業やセミナー等を通してコミュニケーション力をつけた生徒が多く見られた。残念ながら欠席・遅刻総数は昨年度よりも多い結果になった。進路決定後の取り組みに一層の工夫と指導が必要と考えられる。	できるだけ早い時期から「目的意識」を持つことが生徒指導や進路指導において大切だと思えます。生徒自身にいかんにかそのことが大切かを指導する必要があります。	
		・「自己PA力」や「協働する力」などの社会人基礎力を身に付けさせる。	B				
総合	教育活動全体の充実	・保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPA3.6以上。	B		保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPAは3.39であった。	より魅力的な新しい取組を行う。	

※ 自己評価結果について … A:十分である(よくできた) B:ほぼ十分である(ほぼできた) C:あまり十分でない(あまりできなかった) D:改善を要する(できなかった)